

## オール北海道で外国人ドライブ観光を促進する新たな枠組みを構築！

～ 北海道ドライブ観光促進プラットフォームを設立、参加機関も公募 ～

北海道開発局は、本年4月に協定を締結した株式会社ナビタイムジャパンとの連携により、外国人観光客の移動経路等の継続的な把握に取り組んでいます。

今般、これらの情報を地方公共団体や観光関係団体等と共有することにより、オール北海道で外国人ドライブ観光を促進する新たな枠組みとして、「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」を設立しますのでお知らせします。

北海道開発局は、昨年度、株式会社ナビタイムジャパン（本社：東京都港区）を協働実施者として、同社が開発・運営するスマートフォン向けアプリケーション「Drive Hokkaido!」を活用した社会実験を実施しました。

この社会実験から、外国人ドライブ観光の促進により、外国人観光客を道内地方部へ誘導できる可能性があることが分かりました。（参考資料）

この度、北海道開発局は、外国人観光客の移動経路等のデータを関係機関に情報共有し、有効活用していただくことで、北海道のドライブ観光の促進を図ることを目的とする「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」を設置することとしました。（別紙1を参照）

当該プラットフォームの設立に向け、下記のとおり会合を開催します。

また、設立会終了後、プラットフォームに参加していただける地方公共団体・観光関係団体等を募集いたします。参加を希望される団体等は、北海道開発局HPをご覧ください（6/28 16時以降に掲載予定）。

URL：<http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001bhbx.html>

### 記

- 1 会議名 北海道ドライブ観光促進プラットフォーム設立会
- 2 日時 平成30年6月28日（木） 15:00～16:00
- 3 場所 札幌第1合同庁舎（札幌市北区北8条西2丁目）2階 講堂
- 4 主な議事 北海道ドライブ観光促進プラットフォームの設置について
- 5 構成員 別紙2のとおり

・取材を希望される報道関係者の方は、別添申込書により、メール又はFAXにて6月27日（水）17時までにお申込み願います。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 宮崎 貴雄（内線5433）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 横田 弘史（内線5441）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp>



国土交通省北海道開発局開発連携推進課 宛て (FAX 011-746-1032)

(メール [hkd-ky-drivedate@ml.mlit.go.jp](mailto:hkd-ky-drivedate@ml.mlit.go.jp))

## 申 込 書 (報道関係者)

「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム設立会」の傍聴・取材を希望する場合は、本様式により、上記宛先までメール又はFAXでお申込みください。

申込締切は、6月27日(水)17:00です。

■会社名及び部署名
■傍聴・取材者 役職・氏名 (全員の役職・氏名を記載願います)
① (代表者) _____
② _____
③ _____
④ _____
■テレビカメラ持込みの有無 (該当するものに○をつけてください)
有 ・ 無
■連絡先 (代表者の連絡先)

※ご記入いただいた個人情報については、本件に関する連絡以外では使用いたしません。

# 北海道ドライブ観光促進プラットフォームの構築

「世界の北海道」を目指して  
—北海道総合開発計画—

別紙 1

株式会社ナビタイムジャパンが運営するスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」（以下「アプリ」という。）により外国人観光客の利便性向上に資する情報を発信するとともに、外国人観光客の移動経路等のデータを継続的に把握し、関係機関と共有することで、オール北海道でドライブ観光を促進するための新たなプラットフォームを構築。

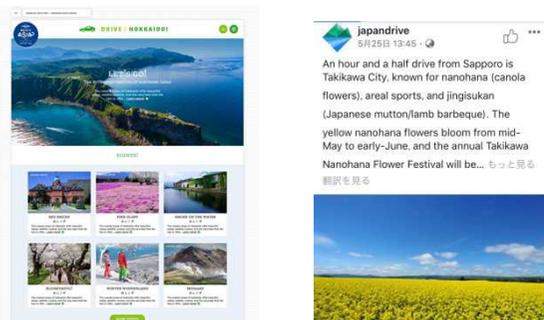
平成30年6月28日設置予定

## 目的

プラットフォームは、アプリから得られる外国人観光客のデータを共有し有効に活用することで、北海道における外国人ドライブ観光の促進を図ることを目的とする。

## 北海道開発局

- プラットフォームの運営（事務局）
- アプリ運営への協力
- 参加機関へのSNS等による情報発信機会の提供



## 株式会社ナビタイムジャパン

- アプリの運営及びデータ取得・整理
- 整理したデータのプラットフォームへの提供及び利活用に係る助言
- SNS・WEBサイトの運営協力 等



## 参加機関（地方公共団体・観光団体等）

- 共有されたデータの活用等による外国人ドライブ観光促進の取組を実施
- より多くのデータ収集のためにアプリのダウンロードを促進
- 開発局が所有、株式会社ナビタイムジャパンが運営するSNS等を活用し観光情報等の発信を実施

事務局（北海道開発局）にて  
参加機関を募集

今後、プラットフォーム参加機関が一堂に会し、情報交換を行う機会の開催を検討

## 北海道ドライブ観光促進プラットフォーム 構成員名簿

平成30年6月28日現在

組織・団体名	
国土交通省北海道運輸局	
北海道	
(公社)北海道観光振興機構	
(一社)日本自動車連盟 北海道本部	
北海道地区レンタカー協会連合会	
(一社)札幌地区レンタカー協会 新千歳空港レンタカー協議会	
(一社)シーニックバイウェイ支援センター	
北海道地区「道の駅」連絡会	
東日本高速道路(株) 北海道支社	
(株)ナビタイムジャパン	
国土交通省北海道開発局	(事務局)

# これまでの取組「北海道ドライブ観光促進社会実験」

参考資料

北海道ドライブ観光促進社会実験協議会（事務局：北海道開発局）では、地域間・季節間の旅行需要の偏在緩和に向け、主に外国人ドライブ観光客を北海道の地方部へ誘導する社会実験を実施。

平成29年度社会実験では、スマートフォン用アプリケーション（(株)ナビタイムジャパン提供）を活用して、北海道、特に地方部の魅力的な観光資源や割引等の特典を提供する施設の情報等を発信するとともに、外国人ドライブ観光客の移動経路や立ち寄りスポット等を分析。検証結果の活用により、今後の観光施策やプロモーション活動等を推進。

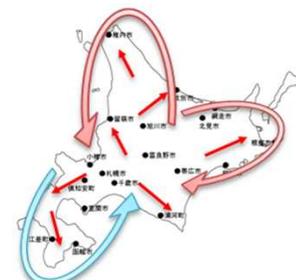
## 社会実験のイメージ



スマホアプリで北海道の観光情報を入手、ドライブ観光を選択



空港などでレンタカーを借り、ドライブ観光スタート



レンタカーを利用して北海道の地方部へ



クーポンを利用して地方部をお得に観光



移動経路・立ち寄りスポット等の把握

## 社会実験の概要

実験期間：平成29年9月1日～11月30日（91日間）

対象地域：札幌市を除く北海道全域

対象者：主にレンタカーを利用する外国人観光客及び外国永住権を保有する日本人

観光情報：339資源

特典提供施設：249施設（札幌市を除く北海道全域から募集）

特典媒体：スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」

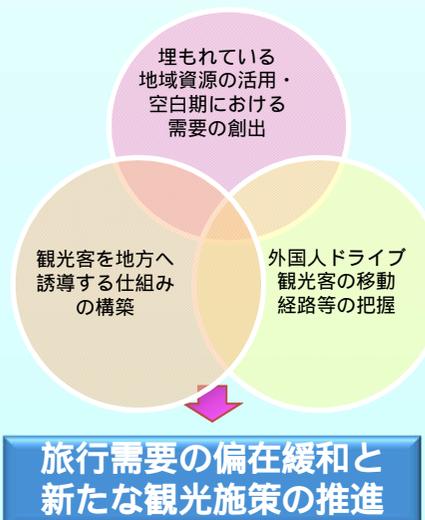
社会実験協働実施者（パートナー）(株)ナビタイムジャパンの開発・提供

対象言語：英語/中国語（繁体字）

ホームページ：<https://hokkaido.japandrive.com>（日本語/英語/中国語（繁体字））

フェイスブック：<https://www.facebook.com/japandrivecom/>（英語）

インスタグラム：<https://www.instagram.com/japandrivecom/>（英語）



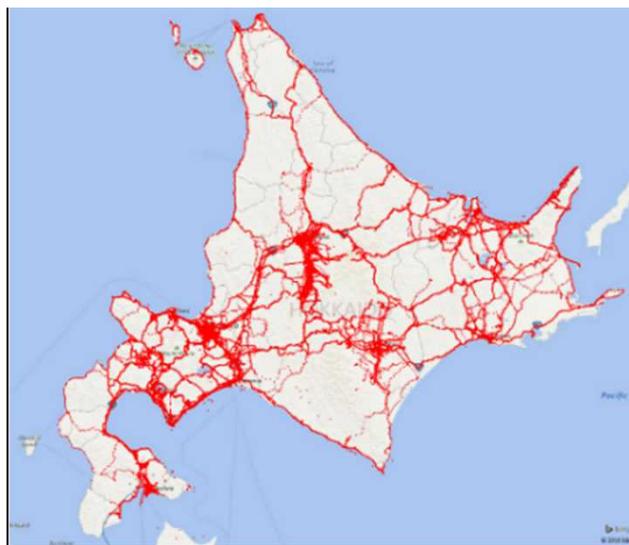
# 「北海道ドライブ観光促進社会実験」実施結果

## アプリ利用者の属性

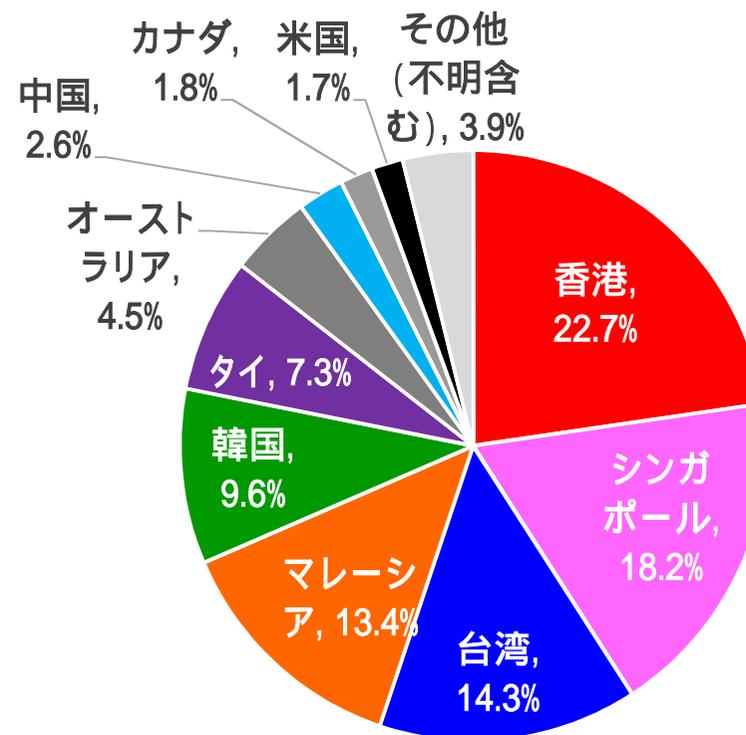
実験期間中、1,211人の外国人観光客が北海道内でアプリ「Drive Hokkaido!」を利用  
( 実験期間中の全道の外国人レンタカー貸渡台数19,543台の約6%に相当 )

国・地域別では香港、シンガポール、台湾、マレーシアの方が多く利用

## GPSデータ取得状況



## アプリ利用者の国・地域別構成割合



N = 1,211人

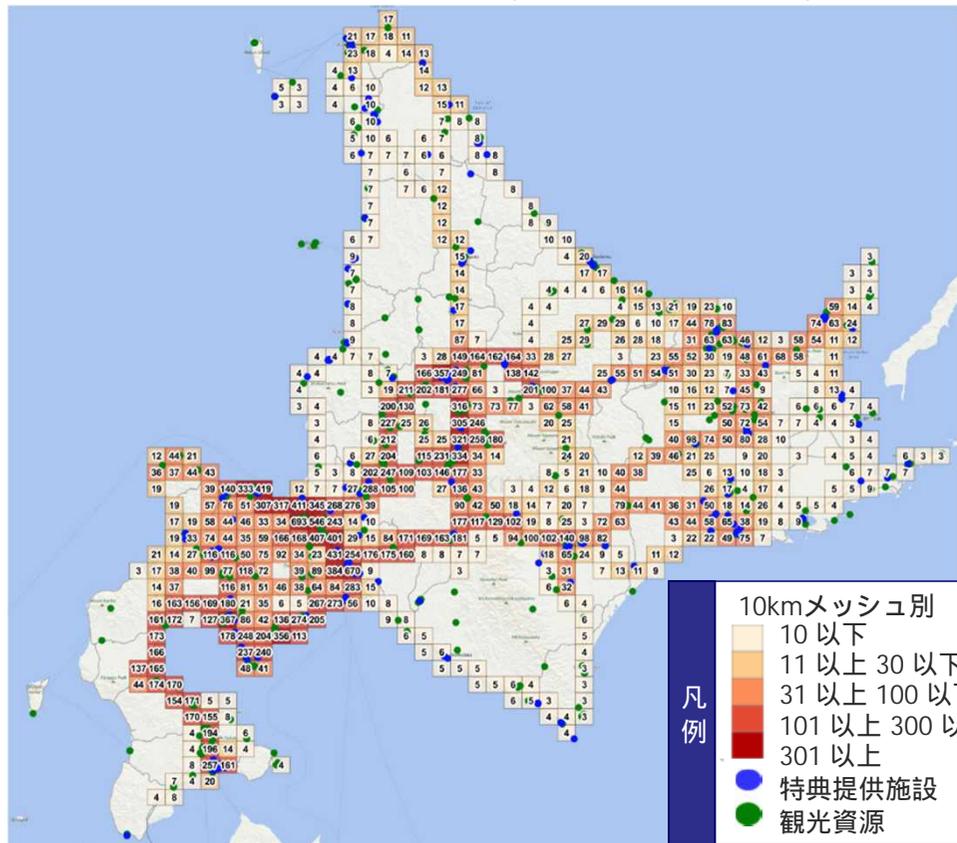
# 「北海道ドライブ観光促進社会実験」実施結果

## 周遊・滞在の概況

レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域も含めて、北海道内各地を広く周遊している状況を確認

滞在は、札幌・小樽・登別など道央の主要観光地や函館・旭川・美瑛・富良野で多いほか、道東では網走・知床・阿寒摩周・釧路・帯広などで比較的多い。旭川・網走より北では、紋別・稚内・利尻島で滞在を確認

GPSデータ測位者数(10kmメッシュ表示)



滞在者数(10kmメッシュ表示)



N 3を表示

# 「北海道ドライブ観光促進社会実験」実施結果

## 周遊・滞在の実態

外国人ドライブ観光客の地方部(道央圏以外)への宿泊割合は42.5%であり、他の移動手段も含む全旅行者データ(29.5%<sup>1</sup>)より高い。

平成28年度社会実験対象地域である「ひがし北海道」<sup>2</sup>地域において、当該市町村を訪れた旅行者が30分以上滞在する割合は34%であり、平成28年度(27%)よりも高い結果となった。

(平成28年度社会実験:クーポンブックによる特典提供)

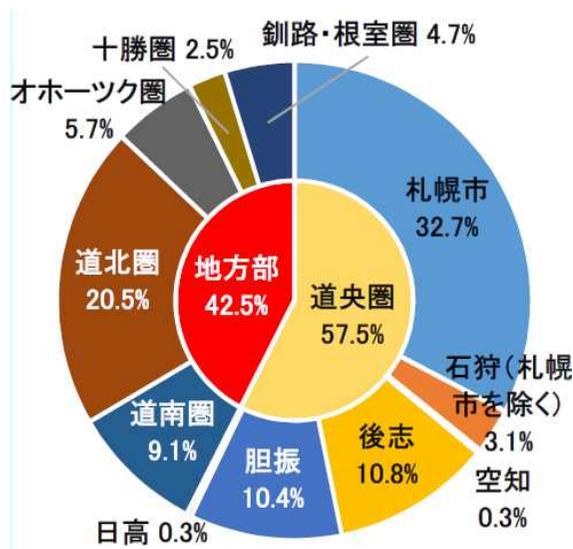
地方部の一部(渡島・宗谷・十勝・釧路)では宿泊地と同一振興局内の市町村での滞在が少なく、近隣市町村の周遊が少ない状況(例えば稚内市宿泊者は直前の宗谷管内市町村への滞在が5.3%)

1 平成28年度 北海道庁調査

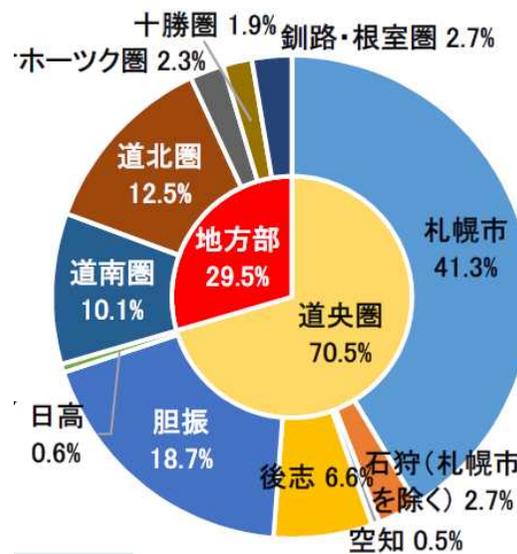
2 ひがし北海道:上川・オホーツク・十勝・釧路・根室管内

## 外国人ドライブ観光客の圏域別宿泊割合

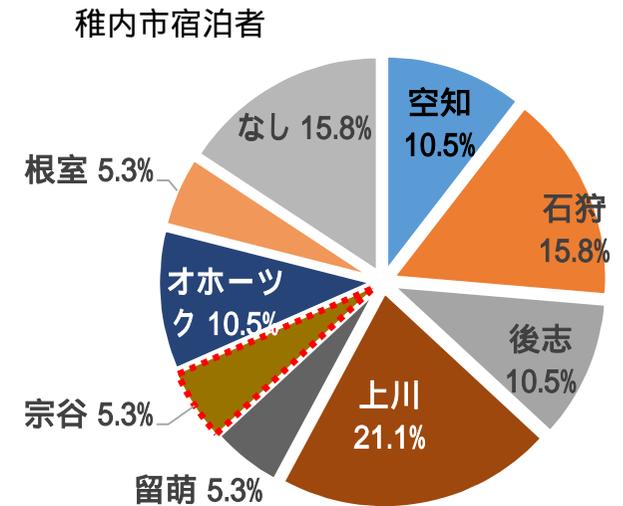
本社会実験結果 (GPSデータ)



【参考】北海道庁調査 (H28.9~11月)



## 宿泊する直前に滞在した市町村 (振興局別割合)



### 「宿泊」について

本実験では、21時~翌3時の間にGPSデータが測位された最後の市町村を「宿泊」とみなしている

出典: 「北海道観光入込客数調査報告書」  
(平成28年度)

## 周遊・滞在の実態

外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は5.8日で、他の移動手段も含む全旅行者データ(3.8日)よりも長い。

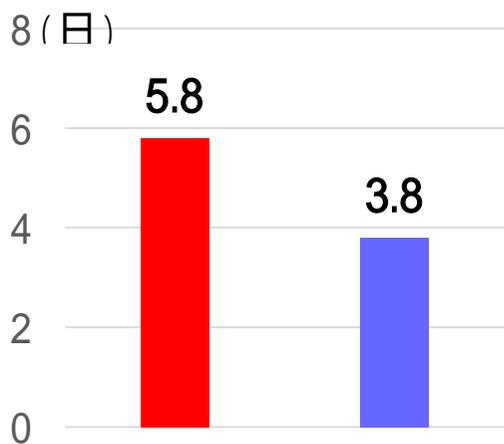
「道の駅」全119駅のうち69駅で10分以上の滞在がなかったが、外国人モニターへのヒアリングでは「道の駅」が提供する地域特産品や観光情報は魅力的との意見。

## アプリ等による情報発信・特典利用

利用者アンケートにて、アプリを閲覧して立ち寄った施設がある、と回答した方が7割。

本実験ではWebサイト、チラシ、SNSを活用して北海道の観光資源や特典提供施設等の情報を発信。フェイスブックでは3万以上のフォロワーを獲得

### 平均旅行日数



外国人ドライブ  
観光客

(H29年9~11月  
本実験における  
アプリ利用者)

全旅行者

(レンタカー以外の  
他の移動手段を含む  
H28年北海道庁調査  
より)

### アプリを利用して立ち寄った施設数 (アプリ利用者へのアンケート)



N=86

## < 社会実験の効果 >

### 地方部への誘導効果

- ・他の移動手段も含む全旅行者データと比較して、外国人ドライブ観光客の地方部への宿泊割合は高く、また旅行日数も長い。

#### ドライブ観光の促進は、地域偏在の緩和に有効

- ・「ひがし北海道」地域の市町村に訪れた旅行者のうち、当該市町村に滞在した旅行者の割合は昨年度よりも高くなった。広域観光周遊ルート等の関係機関の取組とともに、本社会実験におけるアプリ等による情報提供が同エリアへの誘客に寄与。

#### 継続的な取組により、更に地方へ誘導できる可能性

### 地域への一定の経済波及効果

- ・アプリを閲覧して立寄った施設がある方が約7割。アプリで紹介した特典提供施設では、48施設にて延べ600人以上が特典を利用。

#### 来日後でも適切な情報提供により、観光地や施設への立ち寄りを促す可能性

### 潜在的な旅行需要の形成

- ・フェイスブックにおいて短期間で3万以上のフォロワーを獲得。今後も継続して運用。

#### 来道観光客となる可能性がある対象者に効果的な情報発信が可能

## < 今後に向けて >

- ・継続したデータ取得と分析が必要。

#### 季節変動や経年変化を継続的に把握し、具体的な施策検討や効果検証へ結びつけることが重要

- ・外国人ドライブ観光客は新千歳空港の利用が多く、地方部への周遊のため広域に移動しているものの、移動途中の滞在は少ない。

#### 移動ルートに沿った観光資源を磨き上げ、情報発信を強化することが必要

- ・地方部では有名な主要観光地を訪れているものの、近隣市町村への周遊は少ない。

#### 地方部における外国人旅行者の滞在を地域全体で更に増加させる仕組みづくりが必要

- ・現状では「道の駅」への滞在は少ない一方、「道の駅」が提供する地域特産品、地域の旬の観光情報などを外国人は高く評価。

#### 「道の駅」には、立ち寄りや地域の情報発信の拠点となる可能性がある